

第 25 回新潟県社会教育研究大会 新発田大会 参加報告

新潟市社会教育委員（羽賀 万起子）

- 1 期 日 令和 7 年 10 月 8 日（水）
- 2 参加形式 ○現地会場 新発田市生涯学習センター
○web 参加：個人 PC 等による（web 参加者は講演のみ）
- 3 対 象 県及び市町村社会教育委員、社会教育・社会体育・学校関係者
- 4 主 催 新潟県社会教育委員連絡協議会 ※共催、後援省略
- 5 研究主題 「これからのひとづくり まちづくり」～それぞれのウェルビーイングの向上をめざして～
- 6 講演会 演題 「協力隊になって学んだこと～日常まるごと！全てがまちづくり～」
講師 新潟県地域おこし協力隊サポートネットワーク 川辺 直子 氏
- 7 分科会 ①「地域と学校とのつながりがみんなのウェルビーイングに！
～中郷区さとまる学校の取組から～」
②「協働によるまちづくりの推進～「学び」と「活動」の循環を通して～」
③「～何気ない日常の中で～心と体のお休み処
「地域の茶の間」立ち上げから運営まで」

8 研修内容概要

学校やこども園等様々な教育施設が集まる閑静な住宅街の一角の新発田市生涯教育センターにて、第 25 回 新潟県社会教育研究大会新発田大会が開催されました。始めに開会式と長年社会教育にご尽力をされた方々の表彰式がありました。祝辞があったり、表彰式の場面があったり等、華やかな会のスタートでした。

その後は、講演、分科会の流れで大会が進みました。

講演は新発田市赤谷地域にて新潟県地域おこし協力隊サポートネットワーク 川辺 直子様からご講演を頂きました。

川辺さんは神奈川県のご出身で、子育てが一段落したタイミングで、世の中のために何かできないかと東京ビッグサイトでの説明会の参加をきっかけに地域おこしとして 40 代の時に新しいチャレンジを始められました。

写真を使用しながら、実際に地域おこしとして取り組まれた事例をうまくいかなかったことも含めお話を下さいました。

田植えやぜんまい干しの季節仕事を地元の方々と取り組んだエピソードから、地元の方々がより生きいきと過ごしていけるような取り組みとして趣味の会の設立やパン教室などの活動等、ゼロから赤谷地域の方々とどのように関係を結んでいったか、また隣接の地域おこし協力隊のメンバーとの連携や赤谷地域を超えての活動の広がり等具体的な取り組みを教えてくださいました。

9 感 想

熱量のある発表と具体的な事例は、目の前に赤谷地域の方々との日々が映像で見えるようであつという間に講演会の終わりを迎えてしまいました。

1番印象に残った言葉は「1年目、涙をする日々もたくさんあったけど、今、自分の目で見えているものだけではない。1年では何も見えない。3年はかかる。すぐに答えはでないだろう。物事の見方を変えてやり抜く。」という部分でした。

何事にもつながる話であり、輝くような笑顔で発表をされているその裏の覚悟が見えるようでした。

また新潟県の社会教育に携わる方々が集まる場に初めて出席をさせて頂き、長年ご尽力をされている方々の姿を拝見し、今、社会教育委員をさせて頂いていることに改めて感謝を致しました。

まだ視野が格段に狭いので、もっと学び、自分にできることを丁寧に日々積み重ねていきたいと思える時間でした。

参加をさせて頂き、ありがとうございました。